

Common Property Tables

ソフトウェアのバージョン : 3.6

HP OpenView Performance Insight

ユーザーガイド

2007 年 4 月



法律上の表示

保証

HP の製品およびサービスに対する保証は、各製品およびサービスに添付された明示の保証書に記載されているものに限定されます。本書は保証を補填するものではありません。HP は本書に掲載されている技術的な誤記、誤植、欠落に対して責任を負いません。

ここに掲載されている情報は予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

本書で取り扱っているコンピュータソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、HP から使用許諾を得る必要があります。FAR 12.211 および 12.212 に従って、商業用コンピュータソフトウェア、コンピュータソフトウェアドキュメンテーション、および商業用製品の技術データは、ベンダ標準の商業用使用許諾のもとで、米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権

© Copyright 2004 - 2007 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標

OpenView は、Hewlett-Packard Company の米国の登録商標です。

Java™ は、米国 Sun Microsystems, Inc. の商標です。

Oracle® は、米国 Oracle Corporation, Redwood City, California の米国における登録商標です。

UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

Windows® および Windows NT® は、米国 Microsoft Corporation の米国における登録商標です。

その他の製品名は、それぞれの商標またはサービスマーク所有者の財産であり、これによって承認されています。

ドキュメントの更新情報

現在ご使用のマニュアルが最新版であるかどうかを確認するには、次の Web を参照してください。

http://ovweb.external.hp.com/lpe/doc_serv/

目的の製品を探し、本マニュアルの新版をダウンロードできるかどうか確認してください。適切な製品サポートサービスをご購入であれば、新版を確実に受け取ることができます。詳細については HP の営業担当までお問い合わせください。

下表は、前回更新が行われた 2005 年 12 月以降に本書に加えられた変更内容の一覧です。

章	変更内容
第 1 章	編集上の若干の改良
第 2 章	編集上の若干の改良
第 4 章	編集上の若干の改良

サポート

次の HP OpenView の Web サイトを参照してください。

<http://www.managementsoftware.hp.com/>

これらの Web サイトには、HP OpenView の提供する製品、サービス、サポートについてのお問い合わせ先や詳細が掲載されています。

直接、以下のサポートサイトにアクセスすることもできます。

<http://support.openview.hp.com/>

HP OpenView のオンラインソフトウェアサポートでは、お客さまが自己解決できるための方法をご提供しています。サポートサイトでは、お客さまのビジネスの運用に役立つ対話形式の技術サポートツールに手早く効率的にアクセスできます。サポートサイトでは次のことが可能です。

- 関心のあるドキュメントを検索する
- サポートケースを登録/トラッキングする
- サポート契約を管理する
- HP サポート契約を調べる
- 利用可能なサービスに関する情報を確認する
- 他のソフトウェア利用者とディスカッションする
- ソフトウェアトレーニングの検索および登録を行う

サポートの多くでは、HP Passport へのユーザー登録とログインが必要です。多くの場合、サポート契約も必要です。

アクセスレベルに関する詳細は、次の URL で確認してください。

http://www.hp.com/managementsoftware/access_level

HP Passport ID のご登録は、次の URL で行ってください。

<http://managementsoftware.hp.com/passport-registration.htm>

目次

1 概要	7
機能拡張および修正点	7
夜間に実行される削除プロセス	9
追加情報の入手先	9
2 パッケージのインストール	11
円滑なインストールのためのガイドライン	11
ソフトウェアの前提条件	11
バージョン 3.6 へのアップグレード	11
ディレクトリ構造	12
ImportData ディレクトリと PropertyData ディレクトリ	12
Common Property Tables 3.6 のインストール	13
パッケージの削除	14
3 インポートユーティリティとエクスポートユーティリティ	17
インポートユーティリティ	17
エクスポートユーティリティ	18
デフォルトディレクトリの変更	18
デフォルトのインポートディレクトリの変更	19
デフォルトのエクスポートディレクトリの変更	20
デフォルト実行時刻の変更	20
4 ユーザー入力フォーム	21
新規作成フォーム	21
新規カスタマの作成	21
新規場所の作成	22
新規ノードの作成	23
更新フォーム	24
カスタマの更新	25
場所の更新	25
ノードの更新	26
5 プロパティインポートファイル	27
ファイル生成のガイドライン	27
インポートファイルのフォーマット	28
カスタマデータファイル	28
場所データファイル	29

ホストデータファイル	29
ノードデータファイル	30
インポートファイルとプロパティテーブル	31
6 プロパティテーブルの列	33
K_Customer	33
K_Location	34
K_Node	34
索引	37

1 概要

Common Property Tables は、OVPI 上で動作するレポート機能がカスタマ、場所、ノードデータを共有できるようにします。データを共有することで重複を省き、データベースをより効率的に運用できます。また、レポートパックの管理も簡略化されます。

Common Property Tables をインストールすると、以下のテーブルが作成されます。

- K_Customer (カスタマ用)
- K_Location (場所用)
- K_Node (ノード用)

これらのテーブルのデータは、以下の 3 つをソースとしています。

- レポートパック
- Common Property Tables に付属のバッチモード インポートユーティリティ
- Common Property Tables に付属の作成フォームと更新フォーム

機能拡張および修正点

以下の表に、Common Property Tables における最新の拡張機能の概要を示します。

バージョン	リリース日	機能拡張および修正点
2.1	2003 年 5 月	HOSTS ファイルプロパティのインポート (K_node でのノード名と IP アドレスのマッピングを容易にするため) 2.0 から 2.1 へのアップグレードパッケージ
2.2	2003 年 10 月	OVPI オブジェクトマネージャのサポート (" 新規作成 " フォーム、" 更新 " フォーム) バージョン 2.0 または 2.1 から 2.2 へのアップグレードパッケージ
3.0	2004 年 4 月	Oracle のサポート 2 つの新しいディレクトリ： \$DPIPE_HOME\data\ImportData \$DPIPE_HOME\data\PropertyData 夜間に実行されるプロセスの追加： CommonPropertyTables_delete_nodes.pro アップグレードパッケージ： 2.2 から 3.0

バージョン	リリース日	機能拡張および修正点
3.5	2004年8月	TableAlias 値の修正 アップグレードパッケージ: 3.0 から 3.5
3.5	2004年11月	変更なし
3.5	2005年6月	アップグレードパッケージ: UPGRADE_CommonPropertyTables_to_3.5
3.5	2006年3月	変更なし
3.5	2006年5月	変更なし
3.6	2007年4月	パーティションの保守 アップグレードパッケージ: UPGRADE_CommonPropertyTables_to_3.6 修正点 <ul style="list-style-type: none"> • QXCR1000283035 <ul style="list-style-type: none"> — CPT フォーム上のドロップダウンクエリーの最大行数を増やします • QXCR1000323690 <ul style="list-style-type: none"> — Package Manager が Oracle 上の TNS の問題によって停止する • QXCR1000374418 <ul style="list-style-type: none"> — CPT のノード削除 SQL スクリプトが K_CiscoVLAN_PortNonSt からノードを削除する必要がある • QXCR1000382190 <ul style="list-style-type: none"> — 夜間のノード削除プロセスが失敗する • QXCR1000228205 <ul style="list-style-type: none"> — CPT のノード削除 SQL スクリプトが K_IFEntry_Disc の前に FRSCPE 1315 からノードを削除する必要がある • QXCR1000382191 <ul style="list-style-type: none"> — sanconf: 予期しないメッセージの作成ストア • QXCR1000225079 <ul style="list-style-type: none"> — ppGetNode_fk の Oracle ポートで基本ロジックが省略されました • QXCR1000385614 <ul style="list-style-type: none"> — Oracle 上の create_ppReportPackProcLog.sql の問題がある • QXCR1000353616 <ul style="list-style-type: none"> — delete_node_K_FRSCPE_FRSW_pvc.out の警告メッセージ • QXCR1000192006 <ul style="list-style-type: none"> — ppGetNode_fk.sql の Sybase バージョンで、呼のログ中にあったいくつかのタイプミス

夜間に実行される削除プロセス

Common Property Tables には、夜間に実行される削除プロセスを定義する次のファイルが含まれます。

CommonPropertyTables_delete_nodes.pro

この削除プロセスは、以下のタスクを毎晩実行します。

- プロパティテーブルにつき 1 つのストアードプロシージャを再生成
- 各プロパティテーブルからノードを削除
- ksi_managed_node からノードを削除

このプロセスには Sybase 用と Oracle 用の 2 つのバージョンがありますが、プロセス自体はデータベースに依存しません。ポーリングポリシーの管理でユーザーがノードに削除のマークを付けると、これに応じて各プロパティテーブルからノードが削除されます。削除されたノードは、Common Property Tables が管理するログファイルに記録されます。

追加情報の入手先

Common Property Tables 3.6 に影響のある最新の機能強化および既知の問題については、以下のドキュメントを参照してください。

- 『Common Property Tables 3.6 Release Statement』（英語）

OVPI の各種マニュアルと、OVPI 上で動作するレポート機能については、次の Web サイトからダウンロードできます。

http://ovweb.external.hp.com/lpe/doc_serv/

OVPI のマニュアルは [1. Product] で [Performance Insight] を選択すると表示されます。レポートパックおよびデータパイプのユーザーガイドは、[Performance Insight Reporting Solutions] の下に一覧表示されます。各ユーザーガイドのエントリは、そのユーザーガイドが Web に掲載された年および月を示します。マニュアルが改訂されて再度掲載されると、日付が変わります。改訂されたマニュアルはその都度掲載されるので、PDF ファイルと Web 版を比較して、新しいバージョンが掲載されている場合はダウンロードしてください。

2 パッケージのインストール

本章では、次の項目について説明します。

- 円滑なインストールのためのガイドライン
- Common Property Tables 3.6 のインストール
- パッケージの削除

円滑なインストールのためのガイドライン

2005年12月発行のレポートパック CD には、最新のレポートパック、データパイプ、および共有パッケージが含まれています。CD を挿入してパッケージ抽出インタフェースを起動すると、インストールスクリプトは CD からすべてのパッケージを抽出し、それをシステムの Packages ディレクトリにコピーします。抽出が終わると、インストールスクリプトは、Performance Insight を起動してパッケージマネージャを開始するように促します。パッケージマネージャを使用する前に、次のガイドラインを再確認してください。

ソフトウェアの前提条件

Common Property Tables 3.6 は以下を必要とします。

- OVPI 5.2 以降
- OVPI 5.2 に提供されているすべてのサービスパック

バージョン 3.6 へのアップグレード

Common Property Tables の古いバージョンを使用している場合は、アップグレードパッケージをインストールして、Common Property Tables 3.6 にアップグレードできます。Common Property Tables のアップグレード時には、次の点に注意してください。

- Common Property Tables をアップグレードする際に、レポートパックやデータパイプなどの他のパッケージをインストールしないでください。Common Property Tables のアップグレードパッケージのみインストールしてください。
- アップグレードパッケージをインストールするときに、[レポートの配布] オプションを有効にするか、または無効にするかを尋ねるプロンプトが表示されます。デフォルトの [レポートの配布] を受け入れなかった場合、Common Property Tables に付属のフォームはアプリケーションサーバーに配布されません。
- 複数のサーバーで OVPI を実行している場合は、Common Property Tables を実行しているすべてのサーバーにアップグレードパッケージをインストールします。

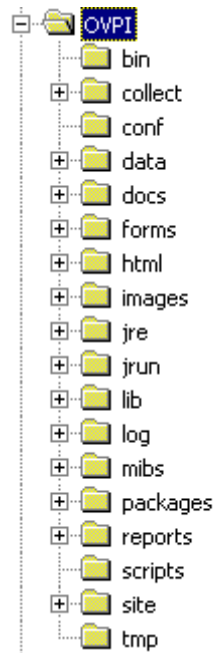
ディレクトリ構造

OVPI がインストールされている場合は、インストールプログラムにより以下が作成されています。

- OVPI 用のディレクトリ (ディレクトリ名 : OVPI)
- インストール可能なパッケージ用のディレクトリ
- OVPI ディレクトリを指す環境変数

UNIX システムでは、OVPI 用のデフォルトのディレクトリは /OVPI です。Windows では、OVPI 用のデフォルトのディレクトリは C:\OVPI です。

Packages ディレクトリは、パッケージマネージャがインストールを待機しているパッケージを探す場所です。このディレクトリにはレポートパックの CD からコピーされたパッケージにつき 1 つのサブフォルダーが含まれています。パッケージマネージャを実行する際、[パッケージの選択] ウィンドウに Packages ディレクトリにあるすべてのパッケージがインストールオプションとして表示されます。



環境変数は、{DPIPE_HOME} です。

ImportData ディレクトリと PropertyData ディレクトリ

Common Property Tables をインストールすると、以下の 2 つのディレクトリが作成されます。

- \$DPIPE_HOME\data\ImportData
- \$DPIPE_HOME\data\PropertyData

PropertyData ディレクトリは、Common Property Tables に依存するすべてのレポートパックによって使用されます。レポートパックは、PropertyData ディレクトリからフラットファイルをインポートし、PropertyData ディレクトリにフラットファイルをエクスポートします。

Common Property Tables 3.6 のインストール

レポートパック CD のパッケージをまだ抽出していない場合は、CD を挿入し、パッケージ抽出の手順指示に従います。Windows では、この手順指示は自動的に開くメニューに表示されます。UNIX では、CD をマウントし、CD ドライブの最上位ディレクトリに移動して、setup コマンドを実行します。

インストールスクリプトによりシステムにパッケージがコピーされると、パッケージマネージャを開始するように促します。レポートパック CD のパッケージが抽出されているものの、Performance Insight が実行されていない場合は、手順 1 から開始してください。レポートパック CD からパッケージを抽出し、パッケージマネージャが実行されている場合は、手順 4 から開始してください。

- 1 システムにログインします。UNIX システムの場合は root でログインします。
- 2 OVPI Timer を停止し、プロセスが終了するのを待ちます。

Windows: [設定]>[コントロールパネル]>[管理ツール]>[サービス]を選択します。

UNIX: root で次のいずれかを入力します。

```
HP-UX: sh /sbin/init.d/ovpi_timer stop
```

```
Sun: sh /etc/init.d/ovpi_timer stop
```

- 3 [管理コンソール]を開いてパッケージマネージャを開始します。パッケージマネージャの[ようこそ]ウィンドウが開きます。
- 4 [次へ]をクリックします。[OVPI パッケージの場所]ウィンドウが開きます。
- 5 [インストール]をクリックします。デフォルトのインストールディレクトリを受け入れるか、必要に応じて別のディレクトリを選択します。
- 6 [次へ]をクリックします。[OVPI レポートの配布解除]ウィンドウが開きます。レポートを配布するため、デフォルトを受け入れます。OVPI アプリケーションサーバー用のユーザー名とパスワードを入力し、[次へ]をクリックします。[OVPI パッケージの場所]ウィンドウが開きます。
- 7 新規インストールの場合は、以下の項目の横にあるチェックボックスをクリックします。

CommonPropertyTables

アップグレードする場合は、以下の項目の横にあるチェックボックスをクリックします。

UPGRADE_CommonPropertyTables_to_3.6

- 8 [次へ]をクリックします。[タイプの検出]ウィンドウが開きます。
- 9 [次へ]をクリックします。[タイプの検出]ウィンドウが開きます。
- 10 パッケージのインストール直後に[タイプの検出]を実行するには、デフォルトを受け入れて[次へ]をクリックします。[概要]ウィンドウが開きます。
- 11 [インストール]をクリックします。[インストールの進捗状況]ウィンドウが開き、インストールが開始されます。インストールが完了すると、パッケージのインストール完了メッセージが表示されます。
- 12 [完了]をクリックして[管理コンソール]に戻ります。

13 OVPI Timer を再起動します。

Windows: [設定]>[コントロールパネル]>[管理ツール]>[サービス]を選択します。

UNIX: root で次のいずれかを入力します。

```
HP-UX: sh /sbin/init.d/ovpi_timer start
```

```
Sun: sh /etc/init.d/ovpi_timer start
```

パッケージの削除

Common Property Tables を新規にインストールした場合は、アンインストールすることができます。ただし、Common Property Tables は多くのレポートパックの前提条件であるため、前提条件として Common Property Tables に依存するレポートパックもアンインストールします。

アップグレードパッケージをインストールした場合は、このアップグレードパッケージを削除しても Common Property Tables の前のバージョンには戻れません。代わりに、前のバージョンに戻すには、新しいバージョンをアンインストールしてから以前に使用していたバージョンを再インストールします。

Common Property Tables をアンインストールするには、以下の手順を実行します。

- 1 システムにログインします。UNIX システムの場合は root でログインします。
- 2 OVPI Timer を停止し、プロセスが終了するのを待ちます。

Windows: 次を実行します。

- a [コントロールパネル]>[管理ツール]>[サービス]を選択します。
- b サービスの一覧から [OVPI Timer] を選択します。
- c [操作]メニューから [停止]を選択します。

UNIX: root で次のいずれかを実行します。

- HP-UX: **sh /sbin/ovpi_timer stop**
- Sun: **sh /etc/init.d/ovpi_timer stop**

- 3 パッケージマネージャを開始します。パッケージマネージャの [ようこそ] ウィンドウが開きます。
- 4 [次へ] をクリックします。[OVPI パッケージの場所] ウィンドウが開きます。
- 5 [アンインストール] をクリックします。
- 6 [次へ] をクリックします。[OVPI レポートの配布解除] ウィンドウが開きます。
- 7 [次へ] をクリックします。[パッケージの選択] ウィンドウが開きます。
- 8 [CommonPropertyTables] の横のチェックボックスをクリックし、[次へ] をクリックします。[選択の概要] ウィンドウが開きます。
- 9 [アンインストール] をクリックします。[アンインストールの進捗状況] ウィンドウが開き、削除が開始されます。削除が完了すると、パッケージの削除完了メッセージが表示されます。
- 10 [完了] をクリックします。
- 11 OVPI Timer を再起動します。

Windows: [設定] > [コントロールパネル] > [管理ツール] > [サービス] を選択します。

UNIX: root で次のいずれかを入力します。

HP-UX: **sh /sbin/ovpi_timer start**

Sun: **sh /etc/init.d/ovpi_timer start**

3 インポートユーティリティとエクスポートユーティリティ

前の章で説明したユーザ入力フォームは、少数のカスタマ、場所、またはノードオブジェクトを扱う場合に適しています。多数のオブジェクトを扱う場合は、バッチプロセスでデータを入力したほうが効率的です。このため、**Common Property Tables** パッケージには、インポートユーティリティとエクスポートユーティリティが含まれています。

インポートユーティリティは、第5章「プロパティインポートファイル」で説明する4つのプロパティデータファイルをインポートします。このインポートユーティリティは、1日1回自動的に実行されます。デフォルトの実行時刻は深夜ですが、任意の時刻に変更することができます。また、インポートユーティリティを設定されたスケジュールよりも前に手動で実行することもできます。エクスポートユーティリティは、必要に応じて実行します。

インポートユーティリティ

インポートユーティリティは、以下の3つのタスクを実行します。

- 更新対象の要素のレコードを含むプロパティデータファイルを読み込む
- データベースの一時テーブルにデータを保存する
- インポートしたデータを使用して、以下のテーブルを更新する
 - K_Node
 - K_Customer
 - K_Location

プロパティデータファイルのデータが、プロパティテーブルに既存の要素(ノード、カスタマ、場所)に対するものであった場合、インポートされたデータによってプロパティテーブルのデータが上書きされます。要素が存在しなかった場合、該当するプロパティテーブルに新しい行が挿入されます。

プロパティインポートファイルとプロパティエクスポートファイルのデフォルトディレクトリは以下のとおりです。

```
{DPIPE_HOME}/OVPI/data/PropertyData
```

このディレクトリに、必ずしも4つのプロパティファイルすべてを置く必要はありません。このディレクトリは空でも、1つまたは2つのファイルを含んでいてもかまいません。1つのプロパティテーブルのみ更新したい場合は、1ファイルのみ編集してその1ファイルのみ保存します。

実行スケジュールの前に、インポートユーティリティを手動で実行するには、以下の操作を行います。

- 1 システムレベルでコマンドプロンプトを開きます。
- 2 {DPIPE_HOME}/scripts ディレクトリに移動します。

- 3 以下のコマンドを入力します。

```
trend_proc -f CommonPropertyTables_importdata.pro
```

エクスポートユーティリティ

エクスポートユーティリティは、プロパティテーブルの内容をタブ区切りのフラットファイルとしてエクスポートし、そのファイルをデフォルトのプロパティエクスポート ディレクトリまたはユーザが指定したディレクトリに保存します。エクスポートユーティリティは、**trend_export** と呼ばれるプロセスに基づいています。このプロセスはデータベースからエクスポートする列を判断し、プロパティディレクトリにタブ区切りのファイルを生成します。このとき以下のように、各ファイルの名前にタイムスタンプを追加します。

- CommonPropertyTables_Customer.dat.<タイムスタンプ>
- CommonPropertyTables_Location.dat.<タイムスタンプ>
- CommonPropertyTables_Node.dat.<タイムスタンプ>

エクスポートユーティリティを実行するには、以下の手順を行います。

- 1 システムレベルでコマンドプロンプトを開きます。
- 2 {DPIPE_HOME}/scripts ディレクトリに移動します。
- 3 以下のコマンドを入力します。

```
trend_proc -f CommonPropertyTables_exportdata.pro
```

デフォルトディレクトリの変更

Common Property Tables は、プロパティのインポートファイルとエクスポートファイル用に予約されたデフォルトディレクトリを作成します。インポートユーティリティはこのディレクトリ内でファイルを探し、エクスポートユーティリティはこのディレクトリにファイルを保存します。別のディレクトリを作成する必要は**ありません**。ただし、デフォルトディレクトリを変更する必要が生じた場合には、以下のタスクの実行が必要になります。

- **タスク 1:** インポートファイルおよびエクスポートファイル用の新しいディレクトリを作成します。
- **タスク 2:** インポートユーティリティに、新しいディレクトリへのパスを指定します。
- **タスク 3:** エクスポートユーティリティに、新しいディレクトリへのパスを指定します。

インポートファイル用とエクスポートファイル用に同じディレクトリを使用することも、それぞれ異なるディレクトリを設定することもできます。

デフォルトのインポートディレクトリの変更

データプロパティファイルのデフォルトディレクトリ、つまり、インポートユーティリティがユーザーの編集したファイルを探す場所は、**SourceDirectory** パスで指定されます。このパスは、以下の **TEEL** ファイルで指定されています。

- `CommonPropTablesCustomer.teel`
- `CommonPropTablesHosts.teel`
- `CommonPropTablesLocation.teel`
- `CommonPropTablesNode.teel`

Common Property Tables パッケージをインストールする前にデフォルトディレクトリを変更する場合は、`CommonPropertyTables.ap` ディレクトリにある **TEEL** ファイルを変更します。パッケージマネージャの実行後にデフォルトディレクトリを変更する場合は、以下の 2 つのディレクトリでパス情報を変更する必要があります。

- `CommonPropertyTables.ap`
- `{DPIPE_HOME}/lib`

SourceDirectory を変更するには、以下の手順を実行します。

- 1 データプロパティファイルを格納する新しいディレクトリを作成します。
- 2 該当するディレクトリを開きます (関連するディレクトリについては、前の項の説明を参照してください)。以下のファイルが表示されます。
 - `CommonPropTablesCustomer.teel`
 - `CommonPropTablesHosts.teel`
 - `CommonPropTablesLocation.teel`
 - `CommonPropTablesNode.teel`
- 3 `CommonPropTablesCustomer.teel` ファイルをダブルクリックします。
- 4 `SourceDirectory =` で始まる行を探します。
- 5 既存のパスを新しいディレクトリへの完全パスに置き換えます。新しいパス名は、イコール記号 (=) の直後から開始してください。
- 6 以下のファイルで同じ変更を行います。
 - `CommonPropTablesHosts.teel`
 - `CommonPropTablesLocation.teel`
 - `CommonPropTablesNode.teel`



ファイルフィルターは、元の **SourceDirectory** での指定のままにします。

デフォルトのエクスポートディレクトリの変更

デフォルトのエクスポートディレクトリを変更するには、エクスポートデータプロセスのファイルを修正します。パッケージをインストールする前にエクスポートディレクトリを変更する場合は、CommonPropertyTables.ap ディレクトリで 1 度だけ修正を行います。パッケージマネージャの実行後に変更する場合には、以下の 2 つの場所で修正を行います。

- CommonPropertyTables.ap
- {DPIPE_HOME}/scripts

デフォルトのエクスポートディレクトリを変更するには、以下の手順を実行します。

- 1 CommonPropertyTables.ap ディレクトリで、CommonPropertyTables_exportdata.pro ファイルを編集します。下のサンプルファイルを参照してください。
- 2 3 つの trend_export 文を探し、-o の後ろの括弧で始まる既存のパスを新しいディレクトリへの完全パスに置き換えます。
- 3 必要な場合のみ - このパッケージをすでにインストール済みである場合、{DPIPE_HOME}/scripts ディレクトリに移動し、CommonPropertyTables_exportdata.pro に対する変更と同じ変更を行います。

```
# Package: Common Property Tables
# Purpose: Exports property data for Customers, Regions and Nodes
# into tab delimited files to allow the user to modify existing
# property values. Then using the CommonPropertyTables_importdata.pro
# file to update the existing property values with the modified values.
#
#####
begin: exportdata nowait|
{DPIPE_HOME}/bin/trend_export -c y -p 10000 -a n -o {DPIPE_HOME}/packages/CommonProperty
{DPIPE_HOME}/bin/trend_export -c y -p 10000 -a n -o {DPIPE_HOME}/packages/CommonProperty
{DPIPE_HOME}/bin/trend_export -c y -p 10000 -a n -o {DPIPE_HOME}/packages/CommonProperty

end: exportdata
```

デフォルト実行時刻の変更

自動インポート処理のデフォルトの実行時刻は深夜 12 時です。デフォルトを変更するには、以下の手順を実行します。

- 1 {DPIPE_HOME}/lib ディレクトリで、trendtimer.sched ファイルを編集します。
- 2 ファイルをスクロールダウンし、CommonPropertyTables_importdata.pro コマンドを実行する trend_proc の間隔とオフセットを定義する行を探します。
- 3 オフセットインジケータを修正します。オフセットインジケータは、プラス記号 (+) の後の数字です。たとえば、24:00 から 18:00 に変更した場合、インポートユーティリティは深夜 12 時から 18 時間後、つまり午後 6 時に実行されます。

4 ユーザー入力フォーム

Common Property Tables に保存されているノード、カスタマ、および場所オブジェクトは、次の2つの方法で変更できます。

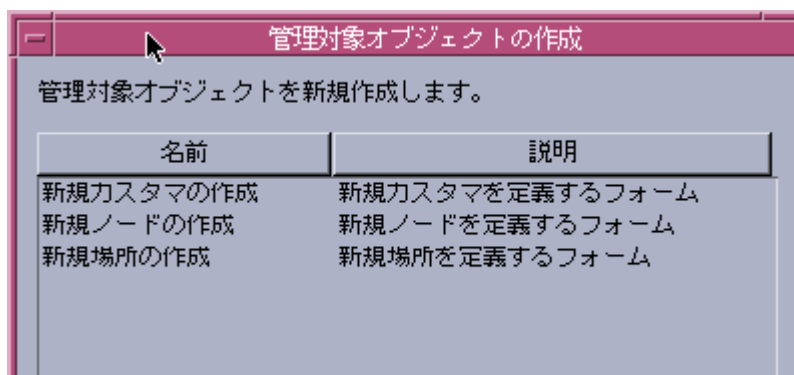
- この章で説明する入力フォームを使用する
- 次の章で説明するインポートユーティリティとエクスポートユーティリティを使用する

入力フォームを使用すると、カスタマ、場所、およびノードの新規オブジェクトの作成と、既存オブジェクトの変更を行うことができます。少数のオブジェクトだけを追加または更新するには、このフォームの使用が適しています。ただし、多数の項目が作業対象に含まれる場合は、バッチ型のユーティリティを使用したほうが効率的です。

新規作成フォーム

新規作成フォームを使用すると、データベースに新しいオブジェクトを追加できます。新規作成フォームを起動するには、以下の手順を実行します。

- 1 [管理コンソール] ウィンドウの左側にあるパネルの [**オブジェクト**] アイコンをクリックします。[オブジェクト/プロパティの管理] ビューが開きます。
- 2 ツールバーの [**新規**] アイコンをクリックするか、メニューから [**ファイル**] > [**新規 ...**] を選択します。[管理対象オブジェクトの作成] ウィンドウが開きます。



- 3 オプションを選択して、ウィンドウ下部の [**作成**] をクリックします。

新規カスタマの作成

新規カスタマを追加するため、カスタマの名前と説明を入力します。カスタマを1つだけ追加する場合は、[OK] をクリックします。カスタマが追加され、ウィンドウが閉じます。さらにカスタマを追加する場合は、[適用] をクリックします。カスタマが追加され、次のカスタマを追加できるようにフォームはクリアされ開いたままになります。

新規カスタマの作成フォームの使用時には、次の点に注意してください。

- 新規カスタマオブジェクトを作成する際は、必ず名前を入力します。
- カスタマの名前は一意でなくてはなりません。同じ名前のカスタマオブジェクトを2つ作成することはできません。
- 説明を指定しなかった場合、カスタマ名が説明として設定されます。

新規場所の作成

新規場所を追加するため、場所の名前と説明を入力します。場所を1つだけ追加する場合は、**[OK]** をクリックします。場所が追加され、ウィンドウが閉じます。さらに場所を追加する場合は、**[適用]** をクリックします。場所が追加され、次の場所を追加できるようフォームはクリアされ開いたままになります。

新規場所の作成フォームの使用時には、次の点に注意してください。

- 新規場所オブジェクトを作成する際は、必ず名前を入力します。
- 場所の名前は一意でなくてはなりません。同じ名前を持つ2つの場所オブジェクトを作成することはできません。

- 説明を指定しなかった場合、場所名が説明として設定されます。

新規ノードの作成

新規ノードを追加するため、ノードの名前とその他の既知の情報を入力します。ノードをカスタマまたは場所に割り当てるには、カスタマまたは場所のドロップダウンリストをクリックし、目的の項目を選択します。ノードを1つだけ追加する場合は、**[OK]** をクリックします。ノードが追加され、ウィンドウが閉じます。さらにノードを追加する場合は、**[適用]** をクリックします。ノードが追加され、次のノードを追加できるようフォームはクリアされ開いたままになります。


新規ノードの作成フォームの使用時には、次の点に注意してください。

- 新規ノードオブジェクトを作成する際は、必ず名前を入力します。名前は **DNS 名** と **IP アドレス** のどちらでもかまいません。
- 入力する名前は一意でなくてはなりません。既存のノードと同じ名前のノードを作成することはできません。
- ノードは事前に存在するカスタマおよび場所のみ割り当てることができます。存在しないカスタマまたは場所にノードを割り当てたい場合には、まず初めに新規カスタマフォームまたは新規場所フォームを使用してカスタマまたは場所を追加する必要があります。
- 説明を入力しなかった場合、ノード名が説明として設定されます。



このフォームを使用して新規ノードを作成しても、データ収集は自動では行われません。**SNMP** 収集を開始するには、ポーリングポリシーの管理でノードを定義し、そのノードをポーリンググループに追加する必要があります。ポーリングポリシーの管理の詳細については、『**Open View Performance Insight 管理ガイド**』を参照してください。

C:\O VPI\packages\CommonPropertyTables\CommonPropertyTables...


 invent

新規ノードの作成

このフォームで、新規ノードを作成できます。ノード名は必須ですが、その他のフィールドはオプションです。[OK] ボタンをクリックすると、ノードを作成してウィンドウを閉じます。[適用] ボタンをクリックすると、ノードを作成しますがウィンドウは開いたままで、さらに別のノードを作成できます。注記: 新規ノードに対する SNMP 収集を開始するには、そのノードをポーリングポリシーマネージャで定義して、ポーリンググループに追加する必要があります。

ノード名	<input type="text"/>
IP アドレス	<input type="text"/>
タイプ	<input type="text"/>
製造元	<input type="text"/>
モデル	<input type="text"/>
シリアルナンバー	<input type="text"/>
オペレーティングシステム	<input type="text"/>
部門	<input type="text"/>
説明	<input type="text"/>
カスタマ名	Acme <input type="button" value="▼"/>
場所	Reston <input type="button" value="▼"/>

最後に作成されたノード
15.75.192.208

更新フォーム

更新フォームは、データベースにすでに存在するカスタマ、場所、およびノードオブジェクトのプロパティを変更します。更新フォームを起動するには、[管理コンソール] ウィンドウの左側にあるパネルの [オブジェクト] アイコンをクリックします。[オブジェクト/プロパティの管理] ビューが開きます。

オブジェクトマネージャにオブジェクトの一覧が表示されます。表示されるオブジェクトの種類は、オブジェクトマネージャのどのビューを開いているかによって異なります。デフォルトのビューは[デバイス]ビューで、デバイスの一覧が表示されます。[カスタマ]ビューにはカスタマの一覧が、[場所]ビューには場所の一覧が表示されます。ビューを変更するには、[ビュー]>[ビューの変更]を選択し、ポップアップウィンドウから別のビューを選択します。

更新対象のオブジェクトの種類が表示されたら、更新する特定のオブジェクトを選択します。オブジェクトを選択すると、[<オブジェクトタイプ>情報の更新]が[オブジェクト固有のタスク]の下に表示されます。更新タスクをダブルクリックして適切な更新フォームを開きます。

カスタマの更新

カスタマ情報を更新する場合、変更内容をフィールドに入力します。[ID]は、参照番号であるため変更できません。カスタマ名を変更する場合、その他の既存のカスタマの名前に変更しないでください。同じ名前でも2つのカスタマオブジェクトを作成することはできません。変更を保存するには、[適用]をクリックしてください。変更が終了したら、[OK]をクリックします。変更が保存され、ウィンドウが閉じます。



C:\O\VP\packages\CommonPropertyTables\CommonPropertyTable...

カスタマ情報の更新



invent

このフォームで、カスタマ情報を更新できます。[適用] ボタンをクリックすると、変更が保存されます。[キャンセル] ボタンをクリックすると、変更が取り消されます。[OK] ボタンをクリックすると、変更を保存してフォームを閉じます。

ID	1
名前	ACME
説明	ACME


OK 適用 キャンセル

場所の更新

場所情報を更新するため、提供されているフィールドに変更を入力します。[ID]は、参照番号であるため変更できません。場所名を変更する場合、その他の既存の場所の名前に変更しないでください。同じ名前でも2つの場所オブジェクトを作成することはできません。変更を保存するには、[適用]をクリックしてください。変更が終了したら、[OK]をクリックします。変更が保存され、ウィンドウが閉じます。

C:\OVP\packages#CommonPropertyTables#CommonPropertyTables.a...

場所情報の更新



invent

このフォームで、場所情報を更新できます。[適用] ボタンをクリックすると、変更が保存されます。[キャンセル] ボタンをクリックすると、変更が取り消されます。[OK] ボタンをクリックすると、変更を保存してフォームを閉じます。

ID

名前

説明

OK 適用 キャンセル

ノードの更新

ノード情報を更新するため、提供されているフィールドに変更を入力します。ノード名は変更できません。ノードを別のカスタマまたは場所に割り当てるには、カスタマまたは場所のドロップダウンリストをクリックし、目的の項目を選択します。変更を保存するには、**[適用]** をクリックしてください。変更が終了したら、**[OK]** をクリックします。変更が保存され、ウィンドウが閉じます。

5 プロパティインポートファイル

インポートユーティリティは、以下のタブ区切りフラットファイルを読み込みます。

- カスタマデータファイル
- 場所データファイル
- ホストデータファイル
- ノードデータファイル

エクスポート元のシステムに、上記のファイルに入力する必要があるデータが存在している場合には、スクリプトを作成してエクスポート元のシステムのデータベースから直接データをエクスポートすることで、自動的に各フラットファイルを生成できるでしょう。ファイルを自動的に生成できない場合は、ユーザー自身で作成する必要があります。ファイルは、**Excel** などの表計算プログラムや、**Notepad** などのテキストエディタで作成できます。

カスタマ、場所、およびノードのプロパティインポートファイルは、**Common Property Tables** パッケージに付属のプロパティエクスポートユーティリティを実行することでも生成できます。ただし、この方法によるプロパティ情報の更新は、プロパティ関連のテーブルにデータパイプによって収集されたデータが含まれている場合のみ機能します。エクスポートユーティリティを実行した後、エクスポートファイルが空であった場合、プロパティテーブルが空です。

ファイル生成のガイドライン

データベースからデータをエクスポートする場合も、独自のプロパティインポートファイルを作成する場合も、カスタマ、場所、ホスト、およびノード情報に個別のファイルを **1** つ作成し、以下のガイドラインに従ってください。

- 下のフォーマットテーブル内の列の順番は重要です。この順序を必ず守ってください。
- **OVPI** での使用が予約されている値は使用しないでください。
- 引用符のついた文字列にタブを含めることはできません。
- 表計算プログラムを使用する場合は、各ファイルをタブ区切りのファイルとして保存します。その他の方法を使用している場合は、各列の間にタブを入力します。
- 各入力ファイルに適切なファイル名を付け、ファイルをインポートユーティリティがファイルを探すディレクトリに保存します。

必要なファイル名を以下のテーブルに示します。

プロパティファイル	ファイル名
Customer	CommonPropertyTables_Customer.dat
Location	CommonPropertyTables_Location.dat
Host	CommonPropertyTables_Hosts.dat
Node	CommonPropertyTables_Node.dat

デフォルトの **SourceDirectory** パスを使用する場合は、以下の場所にプロパティデータファイルを保存します。

{DPIPE_HOME}/data/PropertyData

SourceDirectory パスを変更した場合は、新しいディレクトリにファイルをコピーします。

インポートファイルのフォーマット

この項では、カスタマ、場所、ホスト、およびノードのデータファイルのフォーマットについて説明します。ファイル内の列の順序は、ここに示す順序とまったく同じにしてください。また、**OVPI** で予約されている値は使用しないでください。エクスポート元のシステムのデータベースからデータをエクスポートし、正しい列順序を指定できた場合は、それで作業はほとんど終了です。残りの作業は、予約されている値が正しく使用されていることを確認するだけです。

カスタマデータファイル

カスタマデータファイルには、タブで区切られた **3** つの列が含まれています。各行はそれぞれ **1** つのカスタマを表します。各列の説明については、以下を参照してください。

列番号	説明
1	カスタマごとの一意の整数値この値は、"cust_id" と呼ばれます。
2	カスタマ ID に関連付けられた名前。
3	カスタマの説明。

制限事項

カスタマデータファイルを作成する際は、以下の規則に従ってください。

- ファイルに列ヘッダは含めません。ファイルの最初の項目は、"cust_id" ではなく、実際のカスタマ ID にします。
- 列 1 (cust_id) のために予約されている値は次のとおりです。-2, -1, 0.
- cust_id 文字列が **K_Customer** プロパティテーブルからエクスポートされたものである場合は、変更しないでください。

- **K_Customer** に新規カスタマを追加する場合、列 1 (**cust_id**) の値はすべての既存の **cust_id** の値とは異なるものでなくてはなりません。
- 既存の **cust_id** 値 (既存のカスタマの **cust_id** 値に一致する値) を使用すると、その **cust_id** のデータを上書きすることになります。
- レポートパックまたはデータパイプによって自動的に割り当てられた **cust_id** と競合する可能性があるため、列 1 では大きい数値を使用するようにしてください。たとえば、10,000 以上の数値を使用します。

場所データファイル

場所データファイルには、タブで区切られた 3 つの列が含まれています。各行はそれぞれ 1 つの場所を表します。各列の説明については、以下を参照してください。

列番号	説明
1	場所ごとの一意の整数値。この値は、"location_id" と呼ばれます。
2	場所 ID に関連付けられた名前。
3	場所の説明。

制限事項

場所データファイルを作成する際は、以下の規則に従ってください。

- ファイルに列ヘッダは含めません。ファイルの最初の項目は、"location_id" ではなく、場所 ID を表す整数値にします。
- 列 1 (**location_id**) のために予約されている値は次のとおりです。-2、-1、0
- **location_id** 文字列が **K_Location** プロパティテーブルからエクスポートされたものである場合は、変更しないでください。
- **K_Location** に新規場所を追加する場合は、列 1 (**location_id**) の値は一意でなくてはなりません。つまり、すべての既存の **location_id** 値とは異なる値とします。
- レポートパックまたはデータパイプによって自動的に割り当てられた **location_id** と競合する可能性があるため、列 1 では大きい数値を使用するようにしてください。たとえば、10,000 以上の数値を使用します。

ホストデータファイル

ホストデータファイルには、IP アドレスとホスト名の 1 対 1 のマッピングが含まれています。システムの **HOSTS** ファイルまたはシステムの **HOSTS** ファイルと同じフォーマットのファイルを使用できます。ファイルには、タブで区切られた 2 つの列が含まれています。各行はそれぞれ 1 つのデバイスを表します。各列の説明については、以下を参照してください。

列番号	説明
1	IP アドレス
2	ホスト名

制限事項

ホストデータファイルを作成する際は、以下の規則に従ってください。

- ファイルに列ヘッダは含めません。ファイルの最初の項目は、"IP address"ではなく、場所 ID を表す整数値とします。
- 各 IP アドレスとホスト名は 1 回だけ記述します。IP アドレスまたはホスト名は、1 回目の指定のみインポートされ、2 回目以降は無視されます。
- IP アドレスがすでにホスト名にマッピングされている場合、別のホスト名にマッピングされた同じ IP アドレスをインポートすると、以前のマッピングが無効になります。最新のマッピングだけが有効とみなされます。

ノードデータファイル

ノードデータファイルには、タブで区切られた 15 の列が含まれています。各行はそれぞれ 1 つのノードを表します。各列の説明については、以下を参照してください。

列番号	説明
1	ノード名またはノードの IP アドレスに一致する一意の文字列。 注記: ノード名が解決可能な場合はノード名、不可能な場合はノード IP アドレス。
2	ユーザが指定したノード参照番号。 注記: この番号は、"node_id" と呼ばれます。
3	注記: この列は使用されません。旧バージョンとの互換性を保持するために存在します。
4	ノードの IP アドレス。
5	ノードの種類。ホストに初期設定されます。その他のノードの種類は、今後追加される予定です。
6	ユーザが入力したノードの説明。
7	ノードの製造元メーカー。
8	ノードのモデルタイプ。
9	ノードのシリアル番号。
10	ノードのオペレーティングシステム。
11	カスタマが定義したノードの部門の名前。
12	ノードを所有するカスタマの ID 番号 (cust_id)。この値は、ノードと K_Customer プロパティテーブル内のカスタマのリンクを確立します。 注記: デフォルトの cust_id は -2 です。

列番号	説明
13	ノードの場所の ID 番号 (<code>location_id</code>)。この値は、ノードと <code>K_Location</code> プロパティテーブル内の場所のリンクを確立します。 注記: デフォルトの <code>location_id</code> は -2 です。
14	<code>cust_id</code> に関連づけられたカスタマ名
15	<code>location_id</code> に関連づけられた場所名。

カスタマ名と場所名の列は必須ではありません。ユーザが `K_Customer` および `K_Location` 共通プロパティテーブルに定義されていない `cust_id` および `location_id` を指定するための便宜上の列としてサポートされています。

あるノードに新しい `customer_id` または `location_id` が指定されている場合、その `cust_id/ location_id` が指定したカスタマ名または場所名とともに `K-Customer` または `K-Location` テーブルに挿入されます。カスタマ名または場所名が指定されていない場合、名前はそれぞれ `Undefined Customer` または `Undefined Location` に設定されます。

制限事項

ノードデータファイルを作成する際は、以下の規則に従ってください。

- ファイルに列ヘッダは含めません。
- ノード名が `K_Node` 共通プロパティテーブルからエクスポートされたものである場合は、変更しないでください。
- ノードプロパティテーブルに新規ノードを追加する場合は、列 1 の文字列が一意でなくてはなりません。この文字列は、ノード名 (可能な場合) またはノードの IP アドレスに設定されます。
- 列 1 の文字列が一意でない場合、つまりこの文字列がノード名を表す既存の値と一致する場合、データファイルの他の列によって共通プロパティテーブル内の対応する行が上書きされます。

インポートファイルとプロパティテーブル

左のインポートファイルが右のテーブルを更新します。

プロパティファイル	共通プロパティテーブル
<code>CommonPropertyTables_Customer.dat</code>	<code>K_Customer</code>
<code>CommonPropertyTables_Location.dat</code>	<code>K_Location</code>
<code>CommonPropertyTables_Node.dat</code>	<code>K_Node</code>
<code>CommonPropertyTables_Hosts.dat</code>	<code>K_Node</code>

プロパティテーブル内の既存の情報を修正する場合、値は正確に一致する必要があります。**K_Customer** テーブル内の行を修正する場合、プロパティファイル内およびプロパティテーブル内の **cust_id** 値が一致してはなりません。同様に、**K_Location** テーブル内の行を修正する場合は、**location_id** の値が一致しなくてはならず、**K_Node** 内の値を修正する場合は、ノード名の値が一致しなくてはなりません。

プロパティインポートファイルに既存の値（つまり既存の **cust_id**、**location_id**、ノード名）が含まれる場合、その行の他の値によって共通プロパティテーブル内の対応する行が上書きされます。プロパティデータファイルに新しい値が含まれる場合、新しい行と **keyid** 値がプロパティテーブルに挿入されます。

6 プロパティテーブルの列

Common Property Tables パッケージにより、以下のプロパティテーブルが作成されます。

- K_Customer
- K_Location
- K_Node

各テーブルについて以下に説明します。

K_Customer

K_Customer プロパティテーブルには、カスタマ固有の情報が格納されています。このテーブルに含まれるのは、カスタマの ID、名前、および説明のみです。ただし、必要に応じて、その他のカスタマ情報（たとえばアドレスなど）をサポートするように拡張することもできます。

列	説明
dsi_key_id	自動的に割り当てられる一意の値
dsi_target_name	カスタマ情報では必ず "0" が設定される
dsi_table_key	cust_id と同じ値が設定される
dsi_descr	カスタマが定義可能
cust_id	カスタマごとの一意の参照番号
cust_name	cust_id に関連づけられたカスタマ名

K_Location

K_Location プロパティテーブルには、場所固有の情報が格納されています。このテーブルに含まれるのは、場所の **ID**、名前、および説明のみです。ただし必要に応じて、その他の場所情報をサポートするように拡張することができます。

列	説明
dsi_key_id	自動的に割り当てられる一意の値
dsi_target_name	場所情報では必ず "0" が設定される
dsi_table_key	location_id と同じ値が設定される。場所情報が事前定義されていない場合、 dsi_table_key は、 dsi_key_id と同じ値となる
dsi_descr	カスタマが定義可能
location_id	場所ごとの一意の参照番号。場所情報が事前定義されていない場合、 location_id は dsi_key_id と同じ値になる
location_name	location_id に関連づけられた場所名

K_Node

K_Node プロパティテーブルには、ノード固有の情報が格納されています。ノードは、パフォーマンスデータを取得するためのポーリングの対象として有効な任意のネットワークデバイス（コンピュータ、ルーター、スイッチ）です。

列	説明
dsi_key_id	自動的に割り当てられる一意の値
dsi_target_name	必ず "0" が設定される
dsi_table_key	node_name と同じ値が設定される
dsi_descr	カスタマが定義可能
node_id	各ノードにカスタマが割り当てた参照番号
node_name	ノードの名前 (DNS 名または IP アドレス)
node_type	ノードの種類 (有効な種類は Host のみ)
IP_address	ノードの IP アドレス
make	ノードの製造元
model	ノードのモデルタイプ
serial_num	ノードのシリアル番号

列	説明
operating_sys	ノードのオペレーティングシステム
department	カスタマが定義したノードの部門の名前
sysObjectID	MIB II システムのオブジェクト ID – 現在は使用されていません
cust_fk	テーブル K_Customer を指す外部キー。デフォルト値はデフォルトの K_Customer 行を指す
location_fk	テーブル K_Location を指す外部キー。デフォルト値はデフォルトの K_Location 行を指す
IP_state	IP アドレスのノード名マッピングが、その IP アドレスの最新のマッピングであるかどうかを示すフラグ

索引

記号

\$DPIPE_HOME\data\ImportData, 7, 12
\$DPIPE_HOME\data\PropertyData, 7, 12

C

CommonPropertyTables_delete_nodes.pro, 9

E

ee_collect, 20

K

K_Customer, 33
K_Host, 33
K_Location, 34
ksi_managed_node からのノード削除, 9

T

TEEL ファイル
 CommonPropTablesCustomer.teel, 19
 CommonPropTablesHost.teel, 19
 CommonPropTablesLocation.teel, 19
trend_export, 18
trendtimer.sched, 20

U

UNIX ディレクトリ, 12

あ行

インポートユーティリティ, 17
引用符, 27
エクスポートデータコマンド, 18
エクスポートファイルのタイムスタンプ, 18
エクスポートユーティリティ, 18, 21, 22, 23, 25, 26

か行

カスタマデータファイル, 28
環境変数, 12

た行

ディレクトリ
 スクリプト, 17, 18
デフォルト
 インポート処理の実行時刻, 20
 エクスポートディレクトリ, 19, 20
デフォルトディレクトリ, 18

な行

ノードデータファイル, 30

は行

場所データファイル, 29
プロパティエクスポートユーティリティ, 27
プロパティデータテーブル
 RcomPropTab_Customer, 28
 RcomPropTab_Host, 28
 RcomPropTab_Location, 28
プロパティテーブルからのノード削除, 9

